

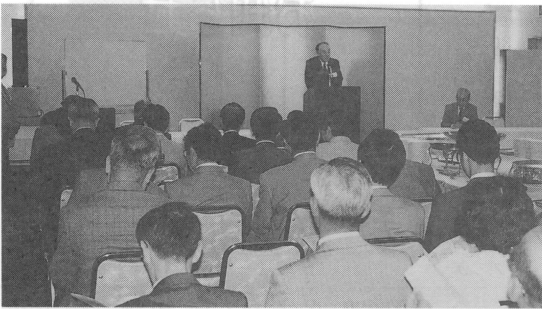
平成10年度

三翠化学会総会報告



(題字は稲川先生)

第49号
平成10年11月30日 発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農芸化学コース内
電話/津<059>232-1211
振替/名古屋9-5934
印刷/株式会社ある
TEL (052) 332-0861 大8長谷川正一



三翠化学会東海支部総会に引き続き、平成10年度三翠化学会総会が、5月30日(土)名古屋、ホテルサンルートにおいて行われた。しばらく母校での総会が続いた後の久々の学外での総会開催であり、高橋先生の記念講演がもたれることもあって、80名近い参加者があり盛大な総会となった。会場の準備等は全て東海支部にお世話願った。来賓として恩師北岸、熊澤両先生ならびに現職教官山田教授のご臨席を頂いた。

総会では、恒例に従い議事に入る前に福田会長の挨拶と、恩師北岸先生のご挨拶を頂いた。北岸先生は、最近新聞紙上を賑わせている環境ホルモン問題にふれられて、農芸化学の果たすべき役割が極めて大きいことをお述べになり、我々を励まして頂いた。続いて議長に大学9回の今井滋氏、議事録署名人に大学20回の田中実氏を選出した。議事は平成9年度の事業報告、

会計報告、基金会計報告、監査報告が担当、幹事から提案された。続いて福田会長から新評議員(生資7回卒)の委嘱が行われた。その後平成10年度事業計画、予算案が担当幹事から提案され承認された。

11時から、古市教授(大13回)の司会で、本年3月に定年により退官された高橋孝雄先生(大6)より「在職32年を顧みて」と題して記念講演を頂いた。お話しは、先生が母校を卒業後九州大学大学院に進まれて、ヒマの毒性・赤血球凝集活性について研究を始めた頃のことから始まり、その後母校に迎えられること、その研究を続けられたこと、その間には大学紛争の嵐が吹き荒れたが岩本教授の計らいにより研究が継続できたこと、等が話された。さらに生物化学研究室から石川教授の後をつがれて栄養化学研究室に移られてから、現教授の古市先生と一緒

に研究を進展されたことが述べられた。その間に、最近の大学生事情が紹介され、特に女子学生が多くなり、昔のバカウラでは通らなくなったこと、気をつけなくてはならない点が変わったことが述べられた。最後に、ここまで自由に研究を続けることができたのは、同窓の故であったことが深い謝辞とともに述べられて、聴衆に感銘を与えられた。先生は御退官後名古屋短期大学学長職につかれ、ますますご発展を続けられている旨が述べられた。

東海支部総会 報告

三翠化学会総会に先立って10時より、ホテルサンルートにおいて東海支部総会が開催された。別府東海支部長(専一)から会務報告が行われた後、役員人事の提案が行われ、新東海支部長に伊佐氏(大3)が選出され満場一致で承認された。また支部長以外は留任が決定された。

古市教授により紹介された。懇親会は、同じ会場で小畑(大15)の進行で盛大に行われた。まず来賓としてご臨席頂いた恩師熊沢先生にご挨拶頂いた。熊沢先生は、「自身が学部長を務められた時に始まった学部改革が、高橋学部長のときに新建築物の建築まで含めて全体が完成されたことを感慨深くお話し頂いた。続いて現職の山田教授から再度の改革構想が持ち上がっていることをお話頂き、同窓会のもつ長い歴史が学部継続の上で極めて重大であること、吹米の大学の話を交えてお話し頂いた。引き続き渡辺元会長(専一)の音頭で乾杯し祝宴に入った。楽しく歓談が行われるうち時がたつて、三翠応援歌を今西氏(専一)の先導で高らかに吟唱し、里村氏(専一)の発声で万歳を三唱して懇親会はお開きになった。

平成10年度事業計画案

- 平成10年5月22日 第1回役員・評議員および基金運用委員会
- 平成10年10月 第2回役員・評議員および基金運用委員会
- 平成10年11月30日 会報第49号発行
- 平成11年3月 第3回役員・評議員および基金運用委員会
- 平成11年3月31日 会報第50号発行(特集号)

平成9年度事業報告

- 平成9年5月21日 第1回役員・評議員および基金運用委員会
- 平成9年10月9日 第2回役員・評議員および基金運用委員会
- 平成9年12月15日 会報第47号発行
- 平成10年3月13日 第3回役員・評議員および基金運用委員会
- 平成10年3月31日 会報第48号発行

平成10年度予算案

収入の部	前年度実績	予算	備考
前年度繰越金	698,749	744,475	
会費	993,000	900,000	
雑収入	22,355	5,000	
預金利子	1,253	2,000	
計	1,715,357	1,651,475	

支出の部	前年度実績	予算	備考
会報印刷費	399,000	450,000	会報49号、50号、ハガキ、封筒
郵送通信費	258,505	300,000	会報発送、会議連絡、振替手数料
会議費	138,431	160,000	役員評議員会
人件費	63,000	100,000	住所変更、会報発送のアルバイト
連絡協議会負担金	30,000	30,000	
事務費	81,946	100,000	ラベル、管理ソフト
予備費	0	511,475	
計	970,882	1,651,475	
差引残高	744,475	0	

平成9年度座金決算報告

収入の部	金額
前年度よりの繰越金	817,805
定期郵便貯金利息	125,450
普通預金利息	56
寄付	1,000,000
計	1,943,311

支出の部	金額
新入生歓迎会	30,000
支部活動費	80,000
同上送料	1,140
こうより補助	30,000
卒業記念品	85,260
計	226,400
差引残高	1,171,691
基金管理内容	
定期郵便貯金	200,000×5
	1,000,000
普通郵便貯金	716,911

平成9年度決算報告

収入の部	予算	決算	備考
前年度繰越金	698,749	698,749	
会費	900,000	993,000	
雑収入	5,000	22,355	総会より
預金利子	5,000	1,253	
計	1,608,749	1,715,357	

支出の部	予算	決算	備考
会報印刷費	450,000	399,000	会報47号、48号、ハガキ、封筒
郵送通信費	300,000	258,505	会報発送、会議連絡、振替手数料
会議費	160,000	138,431	役員評議員委員会
人件費	100,000	63,000	住所変更、会報発送のアルバイト
連絡協議会負担金	30,000	30,000	
事務費	60,000	81,946	ラベル、プリンターの修理
予備費	508,749	0	
計	1,608,749	970,882	
差引残高	0	744,475	次年度繰越分

総会参加者名簿

- (恩師) 北岸 確三先生
(現職教官) 山田 哲也先生
(専門第1回卒) 今西 勝・酒井 圭策
(専門第2回卒) 松田 栄治
(専門第3回卒) 近藤 具雄
(専門第4回卒) 嶋田 協・尾之内 博
(専門第5回卒) 鈴木 重夫
(専門第6回卒) 青木 みか・福田 映
(専門第7回卒) 福田 支・吉田 弘一
(専門第8回卒) 水谷 和一
(専門第9回卒) 伊佐 浄・今村 清
(専門第10回卒) 田中 秀志・内藤 田鶴
(専門第11回卒) 佐藤美津子・澤田寿々太郎
(専門第12回卒) 田井中祐輔・花山 信勝
(専門第13回卒) 林 貢・飯本 義雄
(専門第14回卒) 北村キヨミ
- (大学第1回卒) 飯田 徹也
(大学第2回卒) 古山 順啓
(大学第3回卒) 小野 光直・田中 完爾
(大学第4回卒) 早川 享志・藤田 勝俊
(大学第5回卒) 荻田 修一
(大学第6回卒) 吉川 久代
(大学第7回卒) 藤崎 裕隆
(大学第8回卒) 武村 政春
(大学第9回卒) 熊谷麻由子
(大学第10回卒) 田口 幸
(大学第11回卒) 久松 眞
(大学第12回卒) 梅川 逸人
(大学第13回卒) 南谷 吉彦
(大学第14回卒) 博士前期第4回卒
(博士前期第4回卒) 北村キヨミ
- (大学第15回卒) 伊藤 芳直・杉本 仁彦
(大学第16回卒) 高橋 孝雄・服部 照光
(大学第17回卒) 福田 清弘
(大学第18回卒) 加藤 公一・藤本 公三
(大学第19回卒) 長谷川正一
(大学第20回卒) 今井 滋
(大学第21回卒) 今西 康隆・鋤柄 修
(大学第22回卒) 鈴木 克巳
(大学第23回卒) 古市 幸生
(大学第24回卒) 小畑 仁・橋本 時雄
(大学第25回卒) 松永 国義・服部 守
(大学第26回卒) 杉崎 清子・杉崎 護
(大学第27回卒) 酒井 敏秀
(大学第28回卒) 田中 実・西川 司郎
(大学第29回卒) 飯田 徹也

仙人会 慶弔基金をつくる

専2 クラス会

クラス会 お知らせ

今年の仙人会は、平成10年9月30日、眺望すばらしい鳥羽グランドホテルで開かれた。

卒業42人中7人死亡、現在員35人で、次の19人が出席した。

市橋・大井・大道・岡本・黒部・岸本・近藤・神原・十川・竹内・中西・藤枝・藤山・吉田・中北・中川・(潔・長野・松村・藤井(傍点は今回の世話役)

世話役代表の中北君の司会で開会。

沖津君(平成9年11月21日没)、佐々木敏雄君(同10年6月4日没)ら故人を偲んで黙とうのあと、竹内会長の挨拶があった。

☆ 今回のクラスは、昭和25年卒業後18回目であるが、とくに平成元年石川県で開いた会で沖津君が提案した。

「専2回をもじって、仙人会としよう」ということになり、このときから仙人会は毎年開かれる慣例ができた。



仙人会 98.9.30 鳥羽

仙人会鳥羽大会 (98年9月)

まさに69才となり、人生あと10年……と、淋しくなり、この「仙人会慶弔基金」を積立ることが提案されたのである。これには出席者全員の賛同を得て、出席者一人当り一万円(約20万円)が出された。今後は、総会の都度、残余金を基金に繰入れて、お祝金や香典を差上げる資金とします。早速、最近亡くなった沖津君、佐々木君への香典立替金をこの中から精算しました。

また、この仙人会の事務局の

形をはっきりさせることとし、竹内会長長を確認するほか基金管理の責任者として会計幹事に中川潔彦、監事に松村克彦を選任致しました。そして、今後は毎年秋ごろ、できれば各県、各ブロックを持ち回り当番で開催することとし、平成11年度は大阪ブロックが担当することになりました。なお、二〇〇〇年は、卒業50周年記念大会にする予定です。(文・中川潔彦、写真・松村克彦)

豪雨との思い出残る国崎にて

大20期 クラス会

入学以来、30年という節目を迎え、平成10年6月13日(土)14日(日)に三重県鳥羽市国崎にて第14回目のクラス会を開催した。朝から降り続いていた雨は夕方になってからは風も強くなつてきて、宴会開始を待っていた出席者15人(熊澤先生、麻原、上田、児玉、鈴木、坂本、田井中、高須、田中(俊)、谷口、坪内、西川、速水、広瀬、渡辺)は翌朝の魚釣りでの天候を話題にしながら宴会場に向



かった。熊澤先生のご挨拶と乾杯の音頭で始まった宴会は活魚料理に舌鼓を打ちながら、クラス会の恒例になったまぼろしの銘酒を飛び入りの美人女将と一緒に品評したり、参加者全員からの近況報告、欠席者からの葉書の回覧もワイワイ、ガヤガヤという雰囲気の中で進行した。そして、有志6人によるゴルフコンペが今日の雨の中、強行され、だんだん雨足が強くなってきた頃には6人以外だれもコースにいないことに気づいたことやティショットをアイアンで安全にきざむとするオナーに対して挑戦挑戦といドライバーを振り回す先生のプレー振りが紹介されたときは驚きと友に大いに盛りあがった。幸い、スコアカードは雨に濡れてぼろぼろになってしまったので正確な記録はありませんが、ベスグロには西川に代ってゴルフだけに特別参加して頂いた久

松先生であったことを報告しておきます。翌朝も雨で風も強く、期待していた船釣りは中止と決まり、代わりに伊勢神宮のおかげ横丁に行くことにした。おかげ横丁に行かれた人は多いと思いますが、赤福の五十鈴茶屋の隣にある五十鈴蔵で伊勢神宮の数々の神事を繊細な表情を持つた人形たちによって再現されているのを見たときは、その素晴らしいことに一同感心するほどで、五十鈴蔵は一見の価値があった。雨と付き合ったクラス会ではあったが心地良い気持ちで伊勢内宮前にて散会した。次回クラス会は関東地区在住の人の幹事による開催と決まった。(幹事・渡辺 孝)

下呂にて大4クラス会開催

ブラジル在住の松尾君が帰国したのを機会に11月1、2日下呂のジャンボホテルで急遽クラス会を開催した。何分にも急な企画であったが、松尾、古川、藤田、林真、細見、村上、藪本、花山、勝田、原田、田井中、梅田、渋谷の13名が集まった。車での直行者を除き高山線特急「ワイドビュー飛騨号」を利用、新築中の名古屋駅11番線のホームに次々と懐かしい顔が集まった。65才でJRジャンプ



会の会員になり3割引の特典を利用出来る年齢に達した者が殆どで、老年の域に十分入っているのだが、会って話せば皆まことに元氣よく若若(？)しい。幸い両日とも天候に恵まれ、車窓から木曾川源流である飛騨川溪谷と、山の紅葉を期待した。渓谷は期待以上の壮観であったが、紅葉のほうは下呂以南今年の高温のせいでも木々は色付いておらず、見頃がこれからだったのは残念だった。下呂温泉は、草津、有馬と並び三大名泉の一つで負傷した白鷺が傷を癒すために沐浴していたのが発見に繋がったとの故事から「しらすぎ」と頭につくものが多くホテルの風呂は「しらすぎ湯」、宴会場は「しらすぎの間」といった具合だ。飛騨牛肉のさしみと陶板焼き、松茸の土瓶蒸し、栗、銀杏等の季節料理に舌鼓をうち、松尾君持参のブラジルの地酒で皆



気持ち良くなり、後はカラオケで盛り上がった。来年8月に松尾君が夫婦揃って再度帰国の予定と聞き、恒例の夫婦同伴クラス会を「有馬温泉」で開催することに決め細見君に幹事として一切の手配をお願いし、名物の「赤かぶ漬」と「朴葉みそ」を手土産に下呂駅で散会し各自家路についた。なを今度の会を全て手配してくれた幹事の古川君に心から深謝します。(渋谷記)

定年退職後は如何に生きるか

大6 クラス会

化学6回卒業のクラス会は、3～5年毎に開催しており、今年が卒業40周年にあたるため、皆の集まりやすい名古屋クラウンホテルを会場とした。同ホテルは名古屋市内では珍しい天然温泉と、副社長の堀端繁春氏が三重大学農業土木13回卒業生と言ふ変わり種で便宜を図ってもらいホテル大宴会場で開催した。

10月3日(土)温泉でひと風呂浴びて18時から、奈良先生、赤木先生、嶋林先生のご臨席を仰ぎ、MAISON パール派遣から



駆けつけた藤本氏、関東、関西からの出席者を入れて21名と過去最多の参加者を得て懇親会を開始した。

最初に今年3月に生物資源学部部長を退官した高橋氏から大学の近況を聞き、続いて先生方のご挨拶・退官後の様子、出席者の近況報告、欠席者の動向、学生時代の思い出から退職後の老後の生き方まで、予定時間を大幅に超過して大いに楽しく語り合った。

翌日、都合のつく12名でリタイア後の模範生、陶芸家服部英作工房 Atelier・Tom-Tam「富吉窯」へ行き服部師匠の手ほどきで電動ロクロに挑戦、悪戦苦闘のすえ乾燥と窯入れを工房に頼み、一カ月後の出来上りを楽しみに待つこととなった。

その後、工房二階の展示室で

陶芸作品を鑑賞しながら服部夫人と嫁き先から呼び寄せた娘さん二人の手作り料理の昼食で舌鼓を打ち談笑した。

午後は、西川氏の音頭で師匠作品の競り市となり掘り出し物が家への土産になった。その間を縫って展示室隣の自作の茶室で表千家師範夫人のお点前を頂戴し午後4時頃皆大満足で、次回は関東で再会することを約束し解散した。

出席者は3先生のほか天野、伊藤、大杉、川内、川上、神田、近藤、佐野、嶋田、杉本、高橋、豊田、西垣、西川、西沢、服部(照)、服部(英)、福田、藤本、松尾、吉野の24名(杉本 記)

5年ぶりのクラス会が平成10年10月24日、25日に湯ノ山で持たれた。そもそのきっかけは、今年の三翠化学会総会の際ミニクラス会を呼びかけたところ数人が集まって、その席で本格的なクラス会を持つと言うことになった。前回は正月3日の日帰りのあわただしいものであったことをうけて、今回はゆつたりと一泊し、翌日はゴルフをやるとう言うことになった。これは東海地区又はその近辺にいるゴルフ仲間だまにクラスコンペをやっているという事が判明した事による。

ともあれ、24日は仕事の都合で夜遅くしか到着できない一人を除いてほぼ定刻に会場の「やまびこ」(公務員共済、庭田君手配)に全員が集まった。温泉

クラス会便り

大15回卒



でひとふる浴びた後、馬場君の音頭で乾杯し宴会に入ったのであるが、近況報告を始めたところ持ち時間をオーバーする者が続出して(ほぼ全員)、進行役の庭田君がやや強引に話を進めさせる場面もあった。昔話で大いに盛り上がり一時31年前の級友に戻ることもあったが、どこも昨今の不況の影響を受けており、深刻な話に及ぶこともあった。もとも多かったのが、「娘をよろしく」で、家庭人として皆それなりの重要な立場にいる事も実感させられた。宴会の終わる頃千葉から小島君が駆けつけ、出席者15名全員が揃った。宴会の後も幹事の部屋に集まって、近藤君持参の減量に手に入らない(と本人が言う)島根の酒や、中国の超きつい酒(これは一部の人以上あまり飲まなかった)で夜の更けるのを忘れて話し込んだ。このころには、話は仕事のことを全部忘れて楽しいものであった。

翌日は風が少しきつかったものの快晴に恵まれ、絶好のゴルフ日和、観光日和となった。ゴルフは宿に程近い四日市東急ゴルフ倶楽部で10名が参加して行われた(山路君手配)。同級生の親睦コンペなので和気あいあい(の中に闘志を秘めて?)行われた。残り5名(なぜか公務員が多い)はロープウェイで御在所岳に登ったあと、母校を訪問した。しかし母校が毒物混入事件の直後であり立ち入り禁止のため、やむなく建物外からの見学となった。

幹事役を引き受けてくれた庭田君、山路君、苦勞様でした。(小畑)

8年振りのクラス会は台風のまっただ中!!

大27 クラス会同窓

同窓会開催の経緯(ご存じのように今年高橋孝雄先生がこの3月末をもって退官されました。その関連行事が5/31(土)の三翠化学会総会時に名古屋であり、私も久しぶりに参加しました。そこには思いがけなく、東京から小島(旧姓鳥居)君、岡崎から藤田君が来ていました。2次会の席で、高橋先生がクラス担任をされたのは、我々大27期のみであるということを知り、卒業後20年近くたつたこともあり、急遽、クラス会を計画することになった次第です。しかしこの18年の間クラス会を開くことなく過ぎていたこともあり、誰がどうしているのか全てを把握し兼ねることから、何人かの協力をお願いすることになりました。関東は小島君、愛知は藤田君、岐阜は酒井君、三重は中北君、関西は浅井君、その他については早川で分担する



ところから始まりました。高橋先生は、現在名古屋短期大学の学長として社会に貢献されているご多忙な身であり、先生のご都合と照らし合わせ、10月17日(土)と仮決定した上で皆に打診したところ、十数名の参加が望める見通しがたち開催にこぎつけました。怪しい雲行き当日前後の天気予報では、当日から翌日にかけて大型台風10号の上陸が濃厚で、高橋先生からも確認のお電話を頂きましたが、当初の計画通り進めることにしました。幸い天候が荒れる前にアルティア鳥羽に予定の者が集まりました。ここで一応の解散となり、近くの料亭「華月」に無事移動できました。ここで百済君と合流し、名物のせいろ蒸しをみることも目的の一つに舌づつみを打ちつつ往年の昔に戻ってそれぞれ思いを肴に飲談することができました。写真はその後で撮ったものです。ホテルに戻ってからは、出世頭の山北君に差し入れてもらった伊勢萬の美酒(25度ステラ光年、20度海人ロマン、清酒おかげさま、清酒老練)と、都築君の差し入れであるマサヤの製品をはじめ中北君、小島君の差し入れ等飲み食いし事欠かず、外の荒れ狂う風雨を物とせず深夜まで声が途絶えることはありませんでした(が明け方まで飲む強者がいかなかったのは、やはり20年の年のせいでしょうか)。翌朝はうって変わった良い天気となり、海を眼前に望む食堂からの景色は良いアヒタイザーとなったのか皆もりもりと食べていました。ここで一応の解散となり、近々ですが、今回は、新しく建った生物資源学部の新校舎を見ることも目的の一つにあつたので、有志が車に便乗し、三重大に向かいました。どういう訳か、25期の伊藤真さんの車もこの中の一台となつていました。三重大学は、薬物混入事件があつたばかりのために校舎全

体が異様な雰囲気の中であり、残念ながらキャンパスの見学で我慢せざるをえませんでした。他の期のクラス会のように毎年と言うわけにはいかないまでも、5年に一度くらいは集まるうという事で意見が一致して解散となりました。このクラス会を開くにあたり、ホテルを手配してくれた中矢君、料亭を紹介してくれた酒井君、今回残念にも出席できなかったが、寸志を頂いた満島君、カメラマンをしてくれた中北君、お酒やお菓子の差し入れをしてくれた山北、都築の両氏を始め、協力してくれた同期生並びに、台風にもかかわらず変わらず、クラス会に一家の主を送り出し留守を守ってくれた奥様方ありがとうございました。また、ご多忙にもかかわらず、我々の我が儘にお付き合い頂いた高橋先生に感謝致します。(早川享志 記)

- 中北 服部
- 浅井 小島 藤田
- 寺崎 早川
- 笠置
- 桑山 山北
- 高橋先生
- 青木 酒井
- 河村 堀田 鈴木
- 都築 中矢 百済

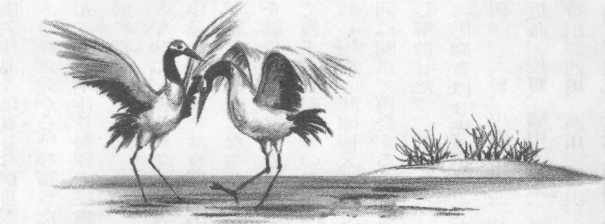
社会人1年生

大学院博士後期課程を修了して、10カ月が経とうとしていますが、三重大学には、博士後期課程より在籍し、幸いにも修士課程まで在籍していた岩手大学での研究を続けることができ、かつ恵まれた研究環境の中で申し分ない研究生活を送ることができました。

私がこちらにきた当初、生物資源学部の新校舎は完成しておらず、旧校舎での研究室で4カ月ほど過ごしました。最初に試験を受けるために大学を訪れたときは、実に立派な校舎だと感心しましたが、夏まで旧校舎で実験をしなければならぬというところを聞いたときには、ちよつと落胆しました。しかし、実験はどこでもできるんだと自分に言い聞かせて夏まで我慢し、そして新校舎に移れたときのよるこびはなかなかのものでした。新校舎に移ったからといって実験のデータが出やすくなつたということはなく、苦しい日々が続きましたが、大宮教授、栗冠助教、木村助手の懇切丁寧な指導、および研究室の皆さんの御協力により無事学位を取得することができました。

今年の4月より、ポストドクトルとして農林水産省、農業技術環境研究所で研究生活を送っています。こちらでは、かねてより取り組みたいと考えていた微生物による難分解性化合物の分解に関する研究をしています。やり

鈴木 勝久



たいことができることは良いことですが、結果を求められ、かならずそれに答えなければならぬという、プレッシャーがあります。それに打ち勝つべく、日々努力をしなければならぬと思っている今日この頃です。学生の皆さんも日々の努力を忘れずに頑張ってください。

平成10年3月 三重大学大学院 生物資源学 研究科 博士後期課程 修了

鈴木勝久
〒305 茨城県つくば市観音台3-1-1
☎ 0298-388825
農業環境技術研究所 土壤微生物利用研究室

加藤 俊次

大学院を卒業して10月でちょうど半年になりますが、在学中に比べずいぶん時間が経つのが早く感じられる半年でした。私は、三重大学では食品化学研究室に在籍しており澱粉についての実験を行っていました。その縁でようやく日本食品化学工業というコーンスターチメーカーに就職しました。皆さんは、日本食品化学工業という名前をご存じでしょうか。多分、大部分の方はご存じないと思います。私も大卒で澱粉の実験をするようになるとまで知りませんでした。実際商品として直接スーパー等の店頭には並ぶのはコーンスターチという物です。又、コーンスターチ自体私たちが馴染みの深い物ではありません。しかし、コーンスターチを原料にして作られる物は皆さんに馴染みの深い物ばかりです。例えば、紙を作る時にコーンスターチは補強剤として加えられますし、ビールを作る時にもコーンスターチは使われます。又、コーンスターチから作られる水飴、液糖はジュース等に加えられます。会社では、トウモロコシからコーンスターチ、水飴、ブドウ糖、果糖等の液糖を主に生産しております。その中で現在、私はコーンスターチから水飴や液糖を作る工程で働いております。

仕事の方は、三交替勤務で、こちらの方は学生時代の規則

な生活のおかげでしょうか、あまり辛いと感じたことはありませんが、社会人となり自分が行う仕事のすべてに責任が伴うという事には少し戸惑いを感じました。自分の言動に責任がとれるようになって初めて一人前の社会人なのではないかと、私はまだまだ失敗も多く、反省の毎日です。学生の時の実験では、失敗したらやり直そうとか、次はここを改良しようとか自分の思い通りに行っており、今考えると随分無責任で気楽であったと思います。又、会社という組織の中に入ると自分の思い通りと言っわけにはいかず、毎日同じ仕事の繰り返しでストレスを感じることも正直言っておりませんが、まだまだ半人前です。今は、一日でも早く皆さんに一人前として認められたいという気持ちで頑張っております。

仕事以外のことは、会社が静岡県にあり、大学院ですと津市内で育った私は、生まれて初めて一人暮らしをしていることです。掃除や洗濯など多少面倒なことが増えましたが、それなりに楽しんでおります。又、会社で働く時間が決まっている分、学生の時よりも日々の生活の中で時間にゆとりができるようになりました。しかし、まとまった時間はなかなかできません。やはり、先輩や大学を卒業して就職した友人に言われた通りで

した。今思えば、学生の時にやり残したことが、なんとたくさんあることかと残念に思います。ですから、学生の皆さんは是非とも学生時代であるから許される時間の特権を活かして、存分に遊び、勉強に励んで下さい。

小谷 章子

入社して八カ月、そろそろ本格的な冬を迎えようとしています。私は愛知県と静岡県との県境近くにある伊藤ハム豊橋工場に勤務しています。私の仕事は、品質保障課でのハム・ソーセージ等の分析検査です。できあがった製品が規格通りであるか調べるために発色剤や保存料の測定をしたり、また製造途中のものや原料についても検査をしています。求めたデータによって製品が管理されているということを知ったときは、とても驚きました。今は、自分の仕事に対する責任の重さを強く感じています。

まだまだ学ぶことばかりです。大学4年間で得たものを大切にしながら、これからも謙虚な気持ちでがんばっていききたいと思っております。



斎藤和歌子

研究、そして初めての仕事... 無我夢中になっていたら、あっという間に8ヶ月も経つていました。私は現在、化粧品会社で開発職に従事しています。沢山の先輩がたに教えて頂きながら、実践を通して商品開発のプロセスを学んでいるところで

す。初めて知ること、新しい発見の連続で、たいへん興味深い毎日です。また、オフタイムには、社内のサークル活動などに参加し、社内外の方々とも交流できて、心身共に充実した日々を送っています。学生時代のような気楽さとは異なって、責任の重さを伴うのが社会人。頭では解っていたつもりですが、就職した今まさに、それを実感しています。けれども、少しでも社会のお役に立ちたいという使命感を持つことができ、いつか自分の開発した商品が市場に出たとき「これ良かったわあ」と言ってもらえるのが楽しみです。化粧品は私達女性にとってのもっとも身近な存在であり、化粧品に囲まれて働けるこの業界に就職できて本当に良かったと思います。今後、社会にアンテナを高くはって、いろいろな事を吸収し、考え、会社の戦力になれるよう成長してゆきたいと思っています。最後になりましたが、これから就職する皆さんにひとこと...就職活動では、英語・パソコンが強みになるとよく言われますが、就職してからはいや、専門科目が一番大切だと感じました。少なくとも開発職の場合、せめて基礎的なところだけでも良いので、農芸化学の各科目をバランス良く習得してあると、応用が利いて効率よく仕事ができ、技術面の習得も理解が早いと思えます。

江藤 潤

(養命酒製造株)

養命酒と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？ 私の家にもある！とか、祖父父母が飲んでいる！というご愛飲家の方、今後ともよろしくお願ひします。健康のために飲んでみたいというあなた、是非お試し下さい。と宣伝はこのくらいにして、多くの方は、CMに出て見える藤田まこと氏の顔や、美しい自然に囲まれた長野県の駒ヶ根工場を思い描いていただけただけでしょう。そして同時に、あの養命酒ね！と名前を聞いただけで、商品が浮かんできたことと思います。つまり、養命酒ってほとんどの日本人が知っているという意味ではすごい商品なんですよ。ところが、私の就職が決まってからよく聞かれる質問が2つあります。1つ目は、養命酒ってどの会社から出しているの？ということですが、その名のとおり「養命酒製造株」の超主力商品です。その歴史は一六〇二年にまで遡る伝統あるものです。2つ目は、養命酒製造株では養命酒しか売っていないの？というところですが、そんなことはありません。他にみりん、焼酎などもあります。ただ、売り上げの大部分を養命酒が占めているという事です。前置きが長くなりましたが、私の勤めるこの会社は、社名より商品名の方が世間に知られたっているという、ちよつと変わった会社です。

私がこの会社に就職して、2年間の社員研修が始まりました。まずは6月まで、実際に養命酒を製造している駒ヶ根工場に社員見習い研修を受けました。そして現在は、駒ヶ根から伊那谷に沿って天竜川を上った箕輪というところにある、中央研究所で7カ月の社員研修を受けております。研究所の研修が終わると、今度は駒ヶ根工場、埼玉工場それぞれ7カ月の社員研修を受けることになっていきます。2年間という研修期間、他の企業と比べてもたいへん長く感じられます。研修生という肩書きがなかなか取れず、名刺も支給されず、寮での共同生活で、格好良いとは言えませんが、ちよつと思苦しくなることもありません。しかし2年間の研修期間中に、いろいろな事業所を経験でき、多くの人間と接することもできます。給与も賞与も普通に支給され、なおかつ2年間も研修させてもらえるのですから、誇れる制度と言えるかもしれません。落ち込んだりもしましたが、今のところは新人らしく、元気に、素直に、前向きに、頑張っているつもりです。そして、三重大学の先輩社員がいらないこの会社にとって、私が三重大学のパイオニアとして、今後後輩を採用してもらえらるくらいの働きをしないと！なんてちよつと意気込むこの頃です。

名誉教授の先生方との昼食会・懇談会

恒例の『農芸化学コースの名誉教授の先生方と現職の同コースの教官との昼食会・懇談会』が平成10年11月18日(水)の12時から13時30分頃まで、農芸化学コースの6階の会議室で開催された。

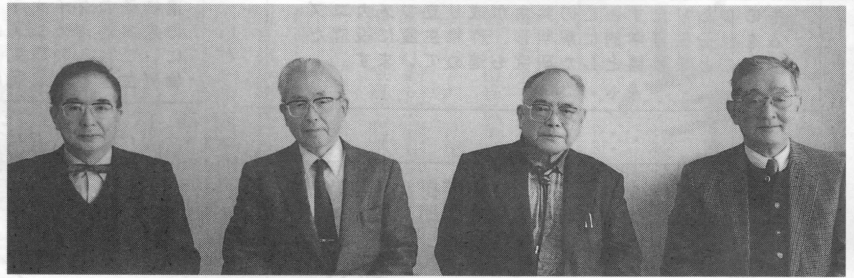


名誉教授と現職教官との昼食会・懇談会風景

出席していただいたのは、あいうえお順に、赤木盛郎・北岸 確三・熊澤善三郎・嶋田 協・松嶋欽一の各先生であつた。これ以外の先生方は、それぞれの所用で欠席されたが、いずれもお元氣のようで安心した次第である。なお、現職の教官は、19名全員が出席した。ただし、嶋田・柏村両先生は、当日の13時出発の実地見学の引率があり、その少し前に退席されたために、嶋田先生は、名誉教授の記念撮影には写っておられない。

この会で、最近の話題について懇談したが、特に新学科構想(案)について、大宮将来計画委員から説明があり、名誉教授の先生から貴重なアドバイスなどをいただいた。本構想については、『農芸化学』の名称などの存亡にも関わる重要なものであり、まとまったものになった段階で、その内容の要点を、本誌にも報告せねばならないと考えている。(田口寛 記)

名誉教授記念撮影
左から順に、松嶋欽一・北岸 確三・赤木盛郎・熊澤善三郎の各名誉教授の先生方



今、私は

久保 嘉直 (大36回)
私たちが家族がモントリオールに到着したのは、一九九六年四月のことでした。日本では春の暖かな光が降りそそぎ、桜の花が満開の季節でした。それとは打って変わって、モントリオールで私たちが迎えてくれたのは、冷たい雪でした。

世界地図を見れば解るように、モントリオールは北海道の北の端、稚内とほぼ同じ緯度であり、津と比べてかなり寒いところに位置しているのがわかります。そんな辺境の地に、人口6百万人、カナダ第2番目の都市モントリオールが存在し

ず、研究と現実の大きな隔を感じずにはいられません。結局、ミシエリンは一九九八年三月に亡くなりました。ミシエリンが私たちが家族に大きな足跡を残してくれたのは言うまでもありません。6歳になる息子はミシエリンの死を理解しているようですが、3歳の娘は、ミシエリンが今なお病院に入院している、そのために会えないと思っており、かつてミシエリンからもらった熊のぬいぐるみにミシエリンペアーと名付けて今も大切に遊んでいます。

私には三重大大学にてマスターコースを修了後、京都大学で博士の学位を取得し、現在モントリオール大学医学研究所において研究生活をおくっています。留学して早2年半が過ぎ、私たちが家族がここモントリオールで経験したエピソードをこの場を借りましてお話ししたいと思います。

なぜミシエリンがそれ程まで私たちが助けてくれたのか、これはあくまで私の一方的な考えですが、ミシエリンは私の子供たちをとても気に入ってくれたからなのでしょう。そのミシエリンが癌を患い、既に手遅れであるのを知ったのは、モントリオールで迎える2度目のハロウィンの数日前です。私は今癌の研究をしています。医師ではなく、ミシエリンに何もしてあげることができ

ず、研究と現実の大きな隔を感じずにはいられません。結局、ミシエリンは一九九八年三月に亡くなりました。ミシエリンが私たちが家族に大きな足跡を残してくれたのは言うまでもありません。6歳になる息子はミシエリンの死を理解しているようですが、3歳の娘は、ミシエリンが今なお病院に入院している、そのために会えないと思っており、かつてミシエリンからもらった熊のぬいぐるみにミシエリンペアーと名付けて今も大切に遊んでいます。

が、2度とあつて欲しくないものです。3 息子、セントローレンス川に溺れる。モントリオールはセントローレンス川の中洲にある町で、それ以外にも大小様々な島がこの辺りには浮かんでいます。その中でも、モントリオールから西に車で2時間程行ったところにあるサウザンドアイランドは日本でも有名でしょう。モントリオール近辺にも、サウザンドアイランド程ではないにしても、多くの島が存在する複雑な地形を呈しており、絶好の漁場となつて

います。釣りの大好きな私は、しばしば息子を連れて釣りに出かけました。その事件は、その時に起こりました。この発端は、日本のおばあちゃんから送つてもらったウルトラマンの靴で釣りに行ったウルトラマンの靴で釣りに行った。釣りをしているうちにぬかぬかにハマり、お気に入りのウルトラマンの靴を汚してしまつた息子は、水辺でその靴を洗い始めました。しかし手を滑らせ、靴をセントローレンス川に流してしまつたのです。みるみる遠ざかつて行くウルトラマンの靴を見て何を思ったのか、息子は自ら川の中に飛び込んだのです。靴の後を追うように流されていく息子を見て、私も息子を助けるために川に飛び込みました。幸い足が届いた私は、息子を抱きかかえ、無事に岸に上がることができました。ウルトラマンの靴は遠くに流されて行き、もうどこにも見当たりません。

この研究室ではそういった一か八かの研究テーマが多く、それについて行けないたくさんいる研究者が志半ばにして去っていきました。私は、ポジティブな結果が出るにしろ出ないにしろ、1つ結論を出してからこの研究室を去りたいと思つています。

最後に、ミシエリンの御冥福をお祈りいたします。たいと思ひ始めた頃、ようやく何とかなるようになり、形になり始めると今度は、大学の神経専門の先生との共同実験の話が浮上り、すぐに共同実験が始まりました。先生に実験の経験が少ないこと知識が少ないことで迷惑を掛けるのが嫌で、その日より論文を毎日数報読むことを自分に義務づけた地獄の生活が始まりました。私にとつてはじめての学会発表や論文投稿を経験することができ、当時の自分には知識が全く無く、研究者からの質問に答えられないことや言っている内容さえ理解できない恥ずかしうけられない思いをしたことを今でもはつきりと覚えておられます。それから数年がたち、私の所属する脳・神経部門にも若手の研究者が約10名在籍するに至りました。

今でも、あの時のことを思うとゾッとします。もし私が飛び込むのが遅れたら、もし私の足が届かなかつたらと考えると、思わず私は息子を抱きしめてしまっています。

これは負け犬の言い訳かもしれませんが、人生、研究が総てではありません。私は、モントリオールでの生活をとても気に入っています。特に、日本では決して見られないスケールの大きな自然は、私の心を捕らえて離しません。そんな大自然の中にいると、あくせと働いている自分がとてもちっぽけな存在に思えてしまいます。「人間とは何ぞや」と言つた哲学的な問題が、頭をよぎります。それ程カナダの自然は素晴らしいのです。皆さんも一度体験してみてください。いかがでしょうか。

私、脳・神経系部門に配属され、抗パーキンソン病薬・抗アルツハイマー病及び抗痴呆薬という薬剤の開発及び基礎的研究が当面の仕事でしたが、脳・神経系部門といつても名前ばかりで所属人員は、製造部門から来た私一人というお粗末なものであり、その分野に対して専門知識や実験経験のある研究者が全くおらず、ましてや農学部出身の私に脳神経の知識があるわけがなく、無からの出発となりま

田口寛先生に感謝いたします。モントリオールでいろいろとお世話になつた山本様、ミシエリン様御夫妻にお礼申し上げます。

私は、脳・神経系部門に配属され、抗パーキンソン病薬・抗アルツハイマー病及び抗痴呆薬という薬剤の開発及び基礎的研究が当面の仕事でしたが、脳・神経系部門といつても名前ばかりで所属人員は、製造部門から来た私一人というお粗末なものであり、その分野に対して専門知識や実験経験のある研究者が全くおらず、ましてや農学部出身の私に脳神経の知識があるわけがなく、無からの出発となりま

伊藤 龍生 (大36回)
私が、大学を卒業後大阪に本社を置く藤本製薬に入社して10年の歳月が過ぎました。当時の入社動機といえば、ただ家に近いからというだけの理由であり、研究がしたいなどの考えは一切ありませんでした。そういふことから、最初に配属された先が製造部門であつた時でも驚きはなく、むしろ製造原料の粉と汗に汚れる楽し日々を過ごしました。しかし、五年目の冬を迎えようとする日に、上司より明日から研究部門に出勤するようにと辞令が下つて、私は配置転換となり、その日をもって研究部門も又、創業研究所に名称が変更され、新しい一歩を踏み出すこととなりました。

持って頭張って頂きたい。最後に今この様な機会をいただいた西川先生に感謝いたします。

私、脳・神経系部門に配属され、抗パーキンソン病薬・抗アルツハイマー病及び抗痴呆薬という薬剤の開発及び基礎的研究が当面の仕事でしたが、脳・神経系部門といつても名前ばかりで所属人員は、製造部門から来た私一人というお粗末なものであり、その分野に対して専門知識や実験経験のある研究者が全くおらず、ましてや農学部出身の私に脳神経の知識があるわけがなく、無からの出発となりま

たいと思ひ始めた頃、ようやく何とかなるようになり、形になり始めると今度は、大学の神経専門の先生との共同実験の話が浮上り、すぐに共同実験が始まりました。先生に実験の経験が少ないこと知識が少ないことで迷惑を掛けるのが嫌で、その日より論文を毎日数報読むことを自分に義務づけた地獄の生活が始まりました。私にとつてはじめての学会発表や論文投稿を経験することができ、当時の自分には知識が全く無く、研究者からの質問に答えられないことや言っている内容さえ理解できない恥ずかしうけられない思いをしたことを今でもはつきりと覚えておられます。それから数年がたち、私の所属する脳・神経部門にも若手の研究者が約10名在籍するに至りました。

各研究分野の研究内容の概要

受験生用に作成しました、我が農芸化学コースの紹介パンフレットの内容をそのまま転写して皆様にお見せします。これで、最近の各研究分野の研究内容の概要がお分かりいただけるものと思います。

土壌・植物栄養学 教授 小畑 仁 助教授 妹尾啓史

地球の表面をごく薄いフィルムの様に取り巻く土壌-植物系を健全な状態に保つことは、人が生き続けるためにとても大切な事です。人にとってより良い土壌環境とは何かを常に考えながら、土壌-植物系における元素の動きを様々な手法を用いて明らかにし、改善することを目標としています。現在、植物の重金属耐性を支配している遺伝子を組み込んだ新しい植物を作ってその効果を試しています。また、土壌に生息している微生物の中には、植物の根に共生して窒素やリンを供給し、植物の生育を助けるものがあります。この共生が成り立つメカニズムを分子生理学的に解明し、作物生産に役立たせることを目標とした研究も進めています。

生物化学 教授 田口 寛 助教授 奥村克純

わたしたち自身の存在の基本単位である動物細胞を中心に、細胞の増殖、がん化、細胞死、発生・分化等の過程に影響を与える物質や遺伝子発現量の変化、DNA鎖の損傷と修復、細胞核内におけるDNA・遺伝子のダイナミックな動態等を研究し、生命現象の基本的メカニズムの解明の一端を担うこと、さらに、これらの研究を、がんの予防や動物を利用した物質生産等の応用につなげることを目指しています。

農産物利用学 教授 小宮孝志 助教授 今井邦雄 助手 勝崎裕隆

「ガン細胞の増殖を抑制する物質」、「蚕の休眠ホルモン関連物質」、「食品の酸化劣化を防止する能力を持つ物質」について物質レベルで生命科学の研究を推進しています。食物や植物、昆虫などを材料に、いろいろな分離方法で純粋な物質とし、その物質の化学構造を高度な機器分析で明らかにします。さらに、化学合成を行い、より有効な物質を作り上げ、私たちに役立たせることを考えています。

生理活性化学 教授 柏村直樹 助手 稲垣 稔 助教授 西川司朗

植物の分化・生長、植物ホルモンはまだわからない！ その合成、メカニズム、活性測定 西川司朗助教授担当

ウイルスとその宿主の不思議な関係！ その出会いにおける分子認識 稲垣 稔助手担当

生命を有機化学で解く 甘いだけが糖ではない！ 寿命・クスリ・活性酸素生成での働き 柏村直樹教授担当

農芸化学コース

農芸化学コースでは、微生物から動植物にいたるすべての生物の生命現象、ならびにそれらの生物が生産するいろいろの物質の構造や機能を、分子、細胞、個体を用いて化学的生物学的に明らかにし、さらに、それらの成果を、農業などの一次生産をはじめ、食品や薬品などの産業に積極的に生かして、人類のより豊かな生活に寄与することを目指して、教育・研究をしております。

生命現象は、DNAのレベルで驚異的な速度で明らかにされつつありますが、まだまだ未知のことで一杯です。何事にも強い好奇心のある、元気な若者が我々の仲間となっていただくことを願っております。

応用微生物学 教授 大宮邦雄 助教授 栗冠和郎 助手 木村哲哉

21世紀の食糧、資源、エネルギー、環境など君たちが解決したいと思う問題や実現したい「夢」を私たちに語って下さい。私たちの「夢」は、次のような研究テーマに託しています。これらのテーマを仲立ちにして、君たちの「夢」の実現を支援します。

1. 微生物遺伝子や蛋白質の構造を解析し機能を改良する。
2. 微生物・酵素の食品・医薬品・飼料への応用を考える。
3. 微生物・酵素の遺伝子組換えでウシを速くふとらせる。
4. 水素生産菌で未利用資源をクリーンエネルギーに変える。
5. 微生物機能を環境浄化に役立てる。

栄養化学 教授 古市幸生 助教授 梅川逸人

がん、心臓病、脳血管障害などの生活習慣病を克服するため、ラットやニトリをモデル動物として脂質の栄養生理学的機能を明らかにしたり、細胞増殖に関係した微量タンパク質やペプチドを精製し、それらの性質や機能について明らかにしています。それらを研究する基本的な手法とし、各種クロマトグラフィー、動物実験、細胞培養、アイソトープ実験、遺伝子関連技法を用いています。



食品化学 教授：山田哲也、教授：久松 眞、助教授：寺西克倫

人類は、人口増大、食糧危機、そして地球環境の破壊など様々な問題に直面しています。食糧生産の確保と地球環境の維持は、21世紀を語る上で避けて通れない問題です。私達はこのような重大な問題に対して、食糧素材と深くかかわる生物資源に関連して、化学的、生物学的見地から新しいメスを入れ、高度化食糧システムの開発に努めています。また、バイオテクノロジー、ケミカルテクノロジーや植物関連技術を駆使して、**新しい分子素材の開発を始めとする総合的なバイオサイエンスの展開**を図っています。

分子生物情報学 助教授 田中晶善

タンパク質(特に酵素タンパク質)を対象として、その構造と機能を探ります。タンパク質は生命にとって最も大切な物質。遺伝子には、タンパク質の「部品」であるアミノ酸がどんな順序でつながるか、という情報が記されていますが、それがどんな構造になりどんな働きをするか、は記してありません。なぜ「順序」だけの情報で十分なのか。それはいまだにナゾです。その巨大なナゾを少しでも解くために、大腸菌の培養から数値解析まで、色々な試みをしています。

先輩の諸氏にお願ひ

三翠化学会の先輩の方々にはお元気にご活躍のこと、お慶び申し上げます。ところで、ここ数年、とりわけ今年の学生の就職は非常に厳しい状況のように感じております。特に学部4年生につきましては、大学院へ進学する者が増えていることもあり、就職人数はそれほど多くはありませんが、まだ数名が決定していない状況です。これにつきましては、もちろん本人に何か問題があったということではありません。教官としましては、自信をもって企業にお薦めできる、将来性のある若者ばかりなのですが、なかなか結果が出ておりません。採用枠が激減していることが一番の理由かと思っております。先輩の方々で情報をお持ちの方には、是非母校まで御一報いただきたくお願い申し上げます。

(コース主任 古市 幸生)

本学部の毒物混入事件について

現在まだ捜査中ですので、今回はそれについての記事は控えさせていただきますが、次回にでも経緯のあらままと、その後の管理強化のことなどについてお知らせする予定です。

なお、本件にともないまして、新たに生物資源学部の校舎の出入口に磁気カードシステムが導入されました。そのために、教職員や専攻生でない人は、開錠されている平日の朝7時から夜10時までの間しか建物に入れません。それ以外の日時には、すべての出入口が施錠されており、入館するには専用の磁気カードが必要ですが、それは教職員と専攻生しか所有できません。今後ずっとこのシステムが続くと思っておりますので、卒業生の方々は、大学へ来る時には、この点にご注意下さい。

「三翠化学会会費納入のお願い」

平成十年度三翠化学会費の納入をお願いいたします。会員の皆様には現在の会費納入状況のカードを同封いたしますのでご確認の上、同封に振替用紙にて納入にご協力ください。なお不明な点がございましたら事務局までご連絡ください。(会計幹事)

新評議員の追加
福島民雄氏(大46回)

評議員の交代
加藤俊次氏から鈴木恒一氏へ(大44回)

お二人のご冥福をお祈りします。

永松 和雄氏(専1) 平成10年5月
佐々木敏雄氏(専2) 平成10年6月

副 報